

令和 4 年 5 月 31 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2018～2021

課題番号：18H01048

研究課題名(和文) 教育に関するリフレクションと業績評価に資するティーチング・ステートメントの研究

研究課題名(英文) Development of Teaching Statement for Effective Reflection and Performance Evaluation

研究代表者

栗田 佳代子 (Kurita, Kayoko)

東京大学・大学院教育学研究科(教育学部)・教授

研究者番号：50415923

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,000,000円

研究成果の概要(和文)：教育に関するリフレクションと業績評価に資する文書であるティーチング・ステートメント(TS)の構造および作成研修の開発を行った。具体的には、TS作成に必要なティーチング・ポートフォリオ・チャート(TPチャート)の効果について検証し、TSをTPのサマリーとして位置づけた上、TPチャートの見直しから開始するTS作成研修を考案した。実際に複数の大学で実施した。

また、普及の一環として立ち上げたティーチング・ポートフォリオ研究会では、TP研究会の総会を3回行い、トピックをしぼった研究会を5回提供した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

大学教員が教育者としてのアイデンティティを自ら見出し、明らかにするティーチング・ステートメントは、先行するティーチング・ポートフォリオ(TP)よりも作成負担をはるかに軽減し、TPチャートにはなかった業績評価の機能を持つ。したがって、TSはTPの簡易版ではあるものの、その目的を継承した普及版として位置づけられる。その構造を定義し、また、作成方法もあわせて提案したという点は、その普及を助け、高等教育の質向上に実質的に寄与するという点で社会的意義が大きい。実際に複数の大学で既に全学的な導入がなされ、実用化に至っている。

研究成果の概要(英文)：The structure of the Teaching Statement (TS), a document that contributes to reflection on teaching and performance evaluation, was devised, and training for its preparation was developed. Specifically, we examined the effectiveness of the teaching portfolio chart (TP chart), which is necessary for TS creation, positioned the TS as a summary of the TP, and devised a TS creation training program that began with a review of the TP chart. The training was actually implemented at several universities.

In addition, the Teaching Portfolio Study Group, which was established as part of the dissemination of the TP, held three general meetings of the TP Study Group and offered five topic-specific study groups.

研究分野：高等教育

キーワード：ティーチング・ステートメント ティーチング・ポートフォリオ ティーチング・ポートフォリオ・チャート リフレクション 教育業績評価

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

ティーチング・ポートフォリオ (TP) とは、教育理念に着目した大学教員の教育活動に関する自己省察 (リフレクション) を通して記述された 7~10 ページの本文に、その記述の根拠資料が添付された書類である。教育業績評価およびリフレクションを通じた教育改善の有効な手段として欧米で普及し (Seldin 2004)、日本でも認知度を高めつつある。

ここで、TP は作成する文章量が多く、リフレクションを促すには作成支援者の確保が必要であるなど、作成コストが高い点が問題で、それが国内において普及の障壁となっている。

一方、TS とは、教員の教育に対する理念や実践を 1~2 ページにまとめた書類である。国内では「教育の抱負」や「教育業績一覧表」などが TS の位置付けに相当する。

ここで、現状の TS には大きく 4 つの問題点が存在する。第一に、推奨される TS の構成や作成方法は提案者によって異なり、それらの違いや関係などが整理されていない点である (Schönwetter et al. 2002)。第二に、広く普及している TS が教育改善につながるリフレクションを促進できれば、全体的な教育の質向上につながると期待できるが、TS 作成において生じるリフレクションの内容や質が評価されておらず不明確である点である (Booke et al. 2017)。第三に TS は広く普及しているものの教育業績評価資料としての有用性に関する学術的な知見は乏しく、その妥当性や信頼性が保証されていない点である。第四に、TP 作成においてはリフレクションを促すためのワークショップやコンサルテーションなど他者の作成支援が肝要とされ (van Tartwijk et al. 2007)、TS についても同様に考えられるが、TS の作成支援方法は確立されていない点である。TS はその実用性の高さから広く活用されているが、上記で指摘した問題点に関わる学術的な知見は乏しいのが現状であるといえる。

2. 研究の目的

本研究の目的は、教育改善につながるリフレクションを促し、教育業績評価資料としても機能する TS の構成と作成方法を明らかにすることに加えて、そのような TS の効果的かつ効率的な作成支援方法を確立することである。そのための具体的な目標は次の 3 点である。

目標 1 国内外の TS に関連する文献調査および実地調査を通して、本研究の目的に合致した TS の構成と作成方法、作成支援方法の開発に必要な基礎的情報を得る

目標 2 目標 1 の成果に基づいて、本研究の目的に合致した TS の構成と作成方法を開発し、それらの有用性を評価する

目標 3 目標 2 の成果に基づいて、TS の作成支援方法を開発し、それらの有用性を評価する

3. 研究の方法

本研究の目的を達成するため、目標 1、2、3 に対応した研究 1、2、3 を実施する。

【研究 1: 国内外の TS に関する文献調査および実地調査】

国内外の TS に関する文献調査および実地調査を通して、TS の構成と作成方法、作成支援方法に関連する情報を網羅的に収集し、集約する。TS の構成と作成方法の調査 国外の関連文献や大学ウェブサイトなどで推奨される TS の構成と作成方法を網羅的に調査し、本研究の目的に合致した TS の構成と作成方法を検討するための基礎的な情報を得る。

TS の作成支援方法の調査 上記と同様の文献調査に加えて、主に国外の大学で実施されている作成ワークショップやコンサルテーションの観察や体験などの実地調査を行う。これらの調査を通して、TS の作成支援方法を開発するための基礎的な情報を得る。

【研究 2: TS の構成と作成方法の開発と評価】

研究 1 の成果をふまえて、日本の高等教育に応じた TS の構成と作成方法を開発し、それらの有用性を評価する。TS の構成と作成方法の開発 研究 1 の知見をもとに本研究の目的に合致する TS の構成案と、ワークシートや作成ガイド、作成のスケジュールモデルなどの作成方法案を作る。それらを用い、大学教員、大学院生に TS を作成してもらい、「リフレクションの促進および教育改善につながるツールになりうるか」という観点から構成案と作成方法案に対してフィードバックを得る。また、作成された TS をもとに採用など人事担当経験がある大学教員から、「教育業績評価資料として有用か」という観点で、案に対してフィードバックを得る。それらをつまえて構成案と作成方法案を改善し、リフレクションを促進できる教育業績評価資料としての TS の構成と作成方法を開発する。TS の構成と作成方法の評価 開発した構成と作成方法を用いて大学教員、大学院生に TS を作成してもらい、作成者に対して、作成の事前事後で、リフレクションに着目した質問紙調査を実施し、さらにその結果をもとに半構造化面接を実施し、TS の構成や作成方法がリフレクションに与える影響を評価する。

【研究 3: TS の作成支援方法の開発と評価】

研究 2 で開発された TS をより作成しやすく、かつ質を高めることを目的に、TS の作成支援の方法の開発を行い、その有効性を評価する。本研究で開発する TS が普及するためには、作成支援へアクセスしやすいことに加え、研究 2 で開発された TS の構成や作成方法を広く知る仕組みを整えることも肝要であることから、これらをオンラインで提供するための Web システムの開発を行う。

リフレクションを促すには他者による支援が有効であることが TP に関する研究知見(Seldin 2004) として得られていることから、作成者が直接的支援を受ける機会としての TS の作成ワークショップおよびコンサルテーションの方法を開発する。

TS の幅広い活用を目的として、研究 2 で開発された TS の構成や作成方法および事例などの作成に必要なリソースの提供と、ワークショップやコンサルテーションの実施をオンラインでも可能とする Web システムを開発する。

4 . 研究成果

教育に関するリフレクションと業績評価に資する文書であるティーチング・ステートメント(TS) の構造および作成研修の開発を行った。具体的には、TS 作成に必要なティーチング・ポートフォリオ・チャート(TP チャート) の効果について検証し、TS を TP のサマリーとして位置づけた上、TP チャートの見直しから開始する TS 作成研修を考案した。実際に複数の大学で実施した。

また、普及の一環として立ち上げたティーチング・ポートフォリオ研究会では、TP 研究会の総会を 3 回行い、トピックをしぼった研究会を 5 回提供した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 4件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 栗田 佳代子、吉田 壘	4. 巻 1
2. 論文標題 教育活動の振り返りを目的としたティーチング・ポートフォリオ・チャートおよび作成研修の開発と評価	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 高等教育開発	6. 最初と最後の頁 19～27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.57294/jaed.1.0_19	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kayoko Kurita & Lui Yoshida	4. 巻 2
2. 論文標題 Creating a “Teaching Portfolio Chart” for reflection and clarifying one's own teaching philosophy	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ETH Learning and Teaching Journal	6. 最初と最後の頁 196-200
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 栗田佳代子	4. 巻 19
2. 論文標題 大学教員の教育業績評価の方法としてのティーチング・ポートフォリオ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 大学評価研究	6. 最初と最後の頁 55-64
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 栗田佳代子	4. 巻 59
2. 論文標題 大学院生のための教育研修の現状と課題	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 教育心理学年報	6. 最初と最後の頁 191～208
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5926/arepj.59.191	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 栗田佳代子, 金田忠裕, 皆本晃弥, 青山貴子, 吉田壘
2. 発表標題 教育の質向上に資するティーチング・ポートフォリオの導入に向けて
3. 学会等名 第25回大学教育研究フォーラム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kayoko Kurita, Lui Yoshida
2. 発表標題 Teaching Portfolio Chart Workshop
3. 学会等名 University College Cork (招待講演)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 栗田佳代子, 吉田壘, 大野 智久	4. 発行年 2018年
2. 出版社 学陽書房	5. 総ページ数 144
3. 書名 教師のための「なりたい教師」になれる本！	

1. 著者名 栗田 佳代子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 医学書院	5. 総ページ数 112
3. 書名 リフレクションを可視化する ティーチング・ポートフォリオ・チャート作成講座【Web解説動画付】	

1. 著者名 佐藤 浩章、栗田 佳代子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 玉川大学出版部	5. 総ページ数 216
3. 書名 授業改善	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>ティーチング・ポートフォリオ研究会 http://a4tp.info/ Kayoko Kurita Lab https://kayokokurita.info/</p>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	吉田 壘 (YOSHIDA LUI) (50755816)	東京大学・大学院工学系研究科(工学部)・准教授 (12601)	
研究分担者	吉良 直 (KIRA NAOSHI) (80327155)	東洋大学・文学部・教授 (32663)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------